

雑 報

古川田溝翁畧傳

郷土博物館では故古川田溝翁の遺族から氏の蒐集になる貴重な貝類標本をゆずりうけたので、同翁の墓伝をかかげ、感謝の意をあらわすと共に、会員諸氏の奮起の一助にもなれはと存じます。

翁は明治7年1月9日 籍江市中小路町に生る。家は旧籍江藩(同部藩)の士族である。ノコエは主として漢字を修められ、当時即明治24年3月東京郵便電信局に勤務同26年電信局書記となり、教員電信局に轉勤を命ぜらる。一年有半にして恥を辭し籍江にて独学力行、明治30年専向学校入学資格検定に合格し苦学の為上京せられ、苦学中東京第一高等学校に合格す。在校中も依然として苦学せられしも、又夜助清も出来卒業後は香川県立大川中学校に博物学の教師として勤務一年半にて辭せられた。此の博物教師時代は勿論高等学校在学中も植物、昆虫、貝類、岩石鉱物、化石類等の採集を極めて熱心にせられ、明治37年12月東京帝國大学医科大学に入学、卒業後直ちに同大学の副手として大学の附属病院に勤務せられた。

明治41年5月新潟県長岡市巻町の私立甲野病院の院長となり、同年12月籍江町の懇請により院長を辭し郷里籍江にて医業を開かる。

大学在学中並びに医師として活動中も貝類の採集を継続せられ経済上又家事上の種々な困難ありしも屈せず研究と採集を怠らず、日本は元より外国産の貝類をも蒐集せられ、個人所有としては全国稀なる豊富な種類と数を蒐集せられた。そして大正10年閑院宮殿下北陸行啓の時貝類標本を台覧に供し感謝状を得られ、又昭和8年陸軍特別大演習中には貝類採集の最高責任者となり、多くの採集品を献上せられた。又貝類標本として福井県産の標本を県下の中、小学校へ寄贈せられ、私財を投じて「福井県産貝類目録」を編集し之も本御書翰の光栄を得た。

又その後出来た福井県博物館会の副会長(知事が会長)となられ県の科学向上の為盡された。尚福井県昆虫図譜の刊行には学問及物質上の大きな援助をせられた。京都大学の貝類等専攻で世界的に有名であり現在日本貝類学会の会長理學博士黒田徳次先生より献名せられた新属新種は ^{フルカワイア} Furukawaia ^{フクイニシス} fukuensis KURODA カクレニナ と言い、四ヶ浦、厨海産の小貝で通称だいこん、和名はヤマトクランカイメンと称する筒状の海綿中に共生する珍種である。

昭和23年3月6日 肝硬変兼慢性腎臓炎にて永眠せらる 享年75才であつた。
(窪田彦左エ門 記)

福井県産化石図譜発刊について

福井市立御土博物館では福井市理科研究会と共編で「福井県産化石図譜」を発行した。これは昭和24年以來刊行していた化石図譜が第6集にまで達したので、これを合本したもので、一応は県下にある各時代の代表的化石が集められているので便利である。

昭和31年9月1日発行。アート紙82ページ 定価300円

内容

第1集	鮎川付近産	(第3紀)
第2集	下穴馬村産	(ジュラ紀)
第3集	芋平産	(二疊紀)
第4集	北谷村杉山産	(白亜紀)
第5集	青柳村西三松および内浦村難波江産	(三疊紀)
第6集	福井市五太子、下市、深谷および大安寺村四十谷産	(第3紀)

昭和31年度行事報告

1月22日	創設講習会	順化小學校	27名	東 谷 薫
3月25日	博物同好会会報発行			
5月13日	探鳥会 1 越前町 2 足羽山		30名 48名	本間技師 及野鳥の会会員
	植物採集会	文殊山	130名	堀 館 長
6月10日	探鳥会	細呂木一吉崎	34名	川 村 博 士
6月17日	植物採集会	敦賀池の河内		堀 館 長
6月23日	講演会(衛生動物について)	公民館		大 瀬 貴 光
7月 8日	昆虫化石採集会	深谷方面		堀 館 長
7月29日 30日	海産動物採集会	厨 海 岸	41名	酒 井 博 士
7月31日	地層見学と化石採集	大味、鮎川		三 浦 先 生